

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	63	学校名	袋井高等学校	記載者	須藤 秀幸
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	生徒の「志」を育てながら、進路実現に向けたきめ細かな進路指導を推進する。	「補講や進路学習は、進路目標達成のために役立っている」と答える生徒70%以上。	A	A	明確な進路選択ができない子の指導は、大変ご苦労があるかと思いますが心を広く持っていただき本人の納得がいく方向で対応をお願いできればと思います。 学力向上が先生方の喜びかと思いますが、生徒が頑張ったプロセスも評価して頂けたら、生徒もやる気をもっと出るかと思っています。
		「通知表、成績個票等により自分の学力と課題を把握できた」と答える生徒90%以上。	A	A	
		1年：「自ら進路について考え、文理選択を行えた」と答える生徒90%以上。 2年：「自分の進路希望に合ったコース・科目選択ができた」と答える生徒90%以上。 3年：「進路実現に必要な情報を収集し、志望校合格に向けた計画と準備ができています」と答える生徒90%以上	A	A	
		「外部模試等の結果をその後の学習に生かすことができた」と答える生徒が70%以上。 主な模擬試験について事前・事後の指導を行う。	A	A	
イ	基礎・基本と自律的学習の習慣を身につけた予習・復習の習慣と生徒自身の振り返りを奨励する。	「自分で計画を立てて目標の家庭学習時間（平日：1・2年2時間/3年4時間、休日1・2年3時間/3年6時間）を確保できた」と答える生徒70%以上。 「学習方法の見直しや改善ができています」と答える生徒70%以上。	B	B	基礎・基本と自律的学習の習慣を目指す中で一定の成果を上げていると思います。 一方、平日の学習時間の減少や自律的な学習姿勢の強化が必要であると思います。 1年生のうちから、早期に学習習慣の形成に向けた継続的な指導を通じて、更なる生徒の学力向上と自律的学習を進めることが必要ではないでしょうか。

ウ	授業研究、ICT、教育研究の知見、学びの基礎診断等を活用して時代に合った授業改善を推進する。	<p>「アクティブ・ラーニング(型)、ICT活用など教材・教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と答える生徒 75%以上。 「積極的に発言できた」と答える生徒 70%以上。 「受け身でなく積極的に授業に取り組めた」と答える生徒 70%以上。 「授業で扱う内容に興味・関心を深めた」と答える生徒 70%以上。</p>	B	B	<p>「アクティブ・ラーニング」など授業内容の工夫によって「学びの楽しさ(面白さ)」を教えることも重要かと思われる。</p> <p>やる気、発信、継続、主体性、対話、積極性、グループワーク、興味、これらの方向性を共有されてご指導いただいていることに希望を感じます。答えが無い、自分で探して考えて、求めて創り出す活動の楽しさを伝えることができたと思います。</p>
		<p>「探究の時間は生徒の意識の啓発につながっている」と答える教職員 80%以上。 「探究活動をとおして自分の興味や関心を深めたり、広げたりすることができた。」と答える生徒 90%以上。 校外での課題発表大会や探究型の研修会に参加する生徒 50人以上。</p>	A	A	
		<p>「授業をとおして、文章を的確に読み取り、場面に応じて自分の考えを話したり、書いたりする力がついた」と答える生徒 70%以上。</p>	A	A	
		<p>「授業、課題、定期テストなどをとおして、現代の社会や歴史について考える力を身につけることができた」と答える生徒 70%以上。</p>	A	A	
		<p>「授業や課題、定期テスト等をとおして、論理的に考える力が伸びた。」と答える生徒 70%以上。</p>	A	A	
		<p>「授業をとおして、読んだり聞いたりした内容を基に、主語と動詞の整った自分の考えを伝える英文を書く力を付けることができた。」と答える生徒 70%以上。</p>	A	A	
		<p>「発表や対話をとおして、他の意見を手掛かりに自分の考えを広げたり深めたりできた」と答える生徒が 70%以上。</p>	A	A	
		<p>「体育の授業で知識と実践する態度を養うことができた」と答える生徒 80%以上。</p>	A	A	

様式第5号

		授業をとおして、「今の自分の実生活向上のためにつながる知識や技術が身に付いた」と答える生徒80%以上。	B	B	
エ	部活動、学校行事、HR活動、生徒会活動等をとおして文武バランスの取れた学校生活を送れるようにする。	県大会出場部活10以上。「2時間以上の家庭学習時間を確保して部活動との両立をしている」と答える生徒70%以上。	C	C	宿題を増やせば、「2時間以上の家庭学習時間」は確保できると思われる。ただ、その内容も工夫することによって自主的に学ばせる姿勢も育成したい。
		「学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」と答える生徒90%以上。 「学校行事や生徒会活動への取組をとおして創造力・企画力・運営力、協働性等が向上した。」と答える生徒70%以上。	B	B	
オ	挨拶、身だしなみ、言葉遣い、清掃、自律的な生活等の基本的生活習慣の確立をとおして生徒の公共性と自律心を育てる。	「頭髪・服装のルールを守っている」と答える生徒95%以上。 「明るい挨拶や場面に応じて言葉遣いができている」と答える生徒85%以上。	A	A	基本的な生活習慣の確立と生徒の公共性および自律心の育成において顕著な成果を上げています。 挨拶や身だしなみ、清掃、交通安全などの面で生徒たちは高い意識を持ち、実行しています。 今後はさらに、家庭学習環境の整備や交通安全意識の強化、大掃除時の役割分担の改善を行うことで、質の高い教育を維持し、より多くの生徒が自律的に成長する環境を提供できると考えます。
		「一旦停止や並進をしないなどのルールを守って登校している」と答える生徒90%以上。	A	A	
		「清掃時に級友と協力して、担当場所をきれいに清掃できた」と答える生徒80%以上。 「みんなが使うものを大切に使うことができている」と答える生徒が90%以上。	A	A	
カ	読書、ボランティア活動、地域活動、国際交流をとおして国際社会で活躍できると豊かに育る。	図書館の本の貸出冊数が平均3.8冊以上。 「学校図書館は学習活動の充実に役立っている」と答える教職員90%以上 「学習活動等の学校生活に役立っている」と答える生徒80%以上。	B	B	すでに実施しているかもしれないが、DVDやマンガなど視聴覚を活かした教材を配置し、生徒の興味を喚起するような教材によって利用率を向上させたい。 国際交流の第1歩は外国人に気軽に話し掛ける事。 日本人同士でもコミュニケーションが取れなくてアプリに頼りたい人が大勢居ます。 日頃から自分を出して相手も受け入れて本音で交流する楽しさを味わえば国際交流への道は開けると思います。
		国際交流活動プログラムを再構築し、企画・運営する。 校外の国際交流プログラム、留学に関する情報提供を充実させる。	A	A	
		連携大学への研究室訪問に延べ50人以上の生徒が参加する。	A	A	

様式第5号

キ	生徒・職員 の安全・安心 な生活環境を 整えるとともに、 有用な予算の 執行に努める。	大規模地震等に対する防災意識が高まり、自分でできることを実践している」と答える生徒が80%以上。 「危機対応時における対応の仕方を理解している」と答える教職員90%以上。	B	B	防災、減災に取り組む市民団体とのつながりも防災を身近なものにする機会になります。 心の健康と身体の健康はつながっています。そんな課題に取り組む市民団体もありますのでお役に立つことがあればつなげたいと思います。
		「心身の健康維持、増進のために積極的に取り組んでいる」と答える生徒が80%以上。	A	A	
		「悩みがあるときに、学校内外に相談できる人がいる」と答える生徒が75%以上。	A	A	
		「施設・設備・物品の整備・美化に努めている」と答える教職員、保護者90%以上。	B	B	
		「学校の窓口として適正な対応をしている」と答える教職員、保護者、生徒95%以上。	A	A	
ク	業務の効率化と 精進に努め、多忙 化を解消する。	「仕事の効率化と業務の見直しが図られ、心身の負担が軽減された」と答える教職員が60%以上。 「必要に応じた休暇が取れる職場環境である」と答える教職員が90%以上。	B	B	教員の過重労働が全国的に問題となっている以上、負担減の努力は一層必要かと思われる。
ケ	保護者、近隣、学 校、地域との連 携を深めると ともに、積極 的な情報発信 に努める。	「PTA総会、授業参観、地区会等のPTA活動に1回以上参加した」と答える保護者70%以上。	A	A	PTA活動の見直し、中学生一日体験入学の成功、情報発信など、様々な取り組みが実を結び、目標を達成しており、これらの成功を基に、今後もPTA活動のスリム化や情報発信の強化、体験入学の充実を進めることで、さらに多くの生徒や保護者の信頼を得ることができると思います。
		「教育方針や学校生活の様子及び諸情報がよく伝わっている」と答える保護者80%以上。 ホームページ更新を月20回以上。	B	B	
		「一日体験入学に満足した」中学生が60%以上。中学生の一日体験入学参加が750人以上、公開授業が200人以上。	A	A	